

令和7年度の学校評価

本年度の重点目標	<p>(1) 生徒は「知る」「考える」「分かる」「できる」を通して「学ぶ喜び」を感じ、教職員は日々工夫を重ねた授業を通して「教える喜び」を感じる、「学び・教える楽しさ」に満ちた学校づくりを推進する。</p> <p>ア 教職員は授業力の向上を第一とする。ICTを活用することなどにより「個別最適な学び」や「協働的な学び」を充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を通して、生徒の「学びに向かう心に火をつける」授業の在り方を追求する。</p> <p>(2) 生徒と教職員、生徒同士、教職員同士が互いに尊重し合い、多様な他者に寛容で、自らの存在・命を大切にできる心を育成する。</p> <p>ア 朝の健康観察をはじめ生徒の様子を日常的に観察し、家庭とも連携して生徒の安全・安心に留意する。自己肯定感・自己有用感を涵養し、自らの命を大切にする心を育成する。</p> <p>イ 支援を必要とする生徒に対して迅速かつ組織的に対応できるよう、特別支援教育委員会を時間割内に位置付け、生徒の情報を日常的に共有する。</p> <p>ウ 自転車の交通事故撲滅に向けて、日頃から命の大切さについて生徒の心に訴え、ヘルメット着用の推奨を含む道路交通法の遵守等、安全教育の徹底を図る。</p> <p>エ いじめ等の危機事案発生時には、迅速かつ組織的・体系的な対応をはじめ、生徒指導提要及び法に沿った対応に留意する。</p> <p>オ 真に命を守ることができる組織活動を展開し、防災教育の推進と防災管理の徹底を図る。</p> <p>カ 教職員の心身の健康維持を図り、教育活動のさらなる充実を図るために、業務内容の精選等による働き方改革を進める。</p>		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
防災とPTA活動(総務部)	保護者と学校との連携強化	・PTA活動の活性化とその活用を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ミマモルメ」、ホームページ、「興道だより」等を利用して積極的に情報発信を行い、PTA活動の理解と協力を求める。 ・保護者への連絡を紙媒体から「ミマモルメ」へと移行させ、保護者の利便性向上を図るとともに、教職員の負担軽減とする。
	防災教育の推進	・避難訓練の実施と防災マニュアルの整備	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を様々な状況を考慮して実施し、非常事態時の対応を学ばせる。 ・幅広い観点で防災に関する情報を収集し、より実効性の高いマニュアル作りを目指す。
学習指導(教務部)	主体的・対話的で深い学びをもたらす授業展開、学びに向かう力を養う学習指導方法の研究実践	・研究授業の参観 ・ICTの活用 ・校内研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が意欲的に学習に取り組めるような授業の実践を目指す。 ・新学習指導要領に沿って研究実践を重ね、生徒の主体性を引き出す探究活動の実施方法について議論する。 ・観点別評価により、生徒の自らの学習調整能力を育成する。
		・学習アンケートの実施 ・生徒面談、学習記録等の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実情を的確に把握し、集団の特徴に合わせた生活指導を検討する。 ・自己の学習に対する取り組みについて考えさせ、主体的な授業参加につながるような学習習慣を身に付けさせる。
生活指導(生徒指導部)	安全教育の充実	・校外交通安全指導の実施 ・交通安全教育の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に全職員による街頭指導を実施（登校時年2回、下校時年5回）する。 ・登校時の門に職員輪番にて交通指導を実施する。 ・交通安全教室を開催し、交通安全に対する意識を高める。
	基本的生活習慣の確立	・遅刻指導の実施	・遅刻カードの活用と日常の声かけにより、時間を守る意識を高める。
	いじめ防止対策の推進	・いじめの早期発見に関する取組の実施	・学校生活アンケートを年3回実施し、いじめの早期発見を図るとともに、その後の適切な対応につなげる。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
進路指導 (進路指導部)	生徒の適性、能力、志望に応じた進路指導	・適切な進路情報の提供と進路意識の啓発	・進路講演会や進路講話を実施し、生徒や保護者に対して適切な進路情報を提供する。 ・大学の講義を体験させることやオープンキャンパスに参加させることを通して、進路に対する意識を啓発する。
		・大学入試に向けての指導の充実	・進路検討会を実施し、各大学の情報を共有しながら、生徒の特性や希望に応じた指導につなげる。 ・補習や特別講義、個別指導などを通して、各生徒の進路希望の実現に向けての指導を充実させる。
保健・環境美化 (保健部)	心身の健康の保持増進	・心身の健康に関する啓発活動を委員会活動等により推し進める。 ・特別支援教育に対する理解を深め、活性化を促す。	・生徒保健委員会、学校保健委員会等の委員会活動を通して、心と身体の健康に対する知識や関心を高め、日頃の生活や自己の健康管理に役立てもらう。 ・特別な支援が必要な生徒を教員全体に周知し、個々の対応の仕方を共有し教育活動に活かす。
	校内環境の整備	・校内美化に対する意識を高める。 ・環境美化に関する委員会活動を充実させる。	・清掃方法の周知や清掃道具の充実を図り、積極的に清掃に取り組めるようにする。 ・美化委員による清掃点検や草花の管理など、さまざまな活動を通して環境美化に取り組ませる。
研修活動 (図書部)	初任者研修の充実	・校内研修を実践的な内容を中心として、効果的なものにする。	・校内研修の内容を精選し、計画的なものにする。 ・多くの教員が初任者の指導に関わるようにする。
生徒会活動 (特活部)	生徒会活動の充実	・学校行事の充実	・執行部・議員と協力して、学校行事を生徒主導で充実させる。 ・学校行事において情報機器を上手に利用するように促す。
	部活動の充実	・多くの生徒がはつらつと日々の活動に参加できるよう支援し、公式戦・コンクール等の結果にも繋げる。	・短時間で効率よく、自発的な活動ができるように支援する。健康・安全面にも十分に留意させる。 ・学習と部活動の両立を図り、部活動に取り組む意義を理解させる。 ・部活動ガイドラインを遵守し、生徒の健康管理や学習との両立に留意するとともに、教職員の働き方改革を進める。
情報活動 (特活部)	開かれた学校教育と情報モラルの向上	・生徒の情報モラルを高める。 ・学校 Web ページで情報を提供する。	・タブレット端末を道具として使えるような機会を多く設定する。また、個人情報の取り扱いや著作権・肖像権などの情報モラルに配慮させる。 ・地域に開かれた情報発信が出来るように、Web サイトの随時更新や見やすさを常に心がける。
第1学年 「高校生としての基本的な生活習慣と学習習慣の確立」	意欲的かつ主体的に学習する姿勢と特別活動に積極的に取り組む姿勢の育成	・予習、授業、復習の学習サイクル構築を呼びかける。 ・校内での学習を推奨し、自習力を身に付けさせる。 ・部活動、学校行事に前向きに取り組むよう指導する。	・まず何よりも授業を大切にすることを徹底させ、その学習が定着するように、家庭学習を遂行させる。 ・試験期間を中心に、校内で自学自習に取り組める環境を構築する。 ・部活動、学校行事に全力で取り組むことで何事にも前向きに取り組む活力を醸成する。
	基本的な生活習慣の確立	・挨拶をコミュニケーションのきっかけとする。 ・時間やルールを遵守することを指導する。 ・高校生としての自覚をもたせ、規則正しい生活習慣を確立させる。	・朝や授業時の挨拶を通じて挨拶の大切さを伝え、社会人としての基盤となる人間力を育成する。 ・生活習慣の確立に努め、学校における教育効果の最大化を目指す。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
第2学年 「素敵な大人に近づくための責任感と人間力の育成」	基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 授業や部活動などに集中して取り組むための生活習慣が確立するよう指導する。 挨拶の励行、時間や締め切り、ルールを守ることを集会や教科指導を通じて指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の生活における基本を徹底させ、社会人としての基盤となる人間力を育成する。 生活習慣や家庭での生活の把握と共有に努め、学校における教育効果の最大化を目指す。 社会人として自覚ある言動や行動ができるよう、生徒と日ごろからコミュニケーションを取り、学年団で密に情報共有しながら指導する。
	真剣に学習する姿勢と部活動や学校行事に取り組む姿勢の育成	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習を大切にし、予習、授業、復習の学習サイクル構築を呼びかける。 部活動、学校行事に積極的に参加するよう指導する。 現在よりも成長し、新たなことに挑戦できるように集会などを通して呼びかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業に対して真剣に取り組むことを徹底させ、その学習が最大限活きるよう、家庭学習を遂行させる。 部活動、学校行事を通して、人間的な成長を促し、努力した経験を多く積めるよう指導する。 教育活動で得られるさまざまな経験を価値のあるものに昇華できるよう、何事にも前向きに取り組む姿勢を育成する。
第3学年 「社会人基礎力の素地を醸成」	真剣に学習する姿勢と部活動や学校行事に取り組む姿勢の育成	<ul style="list-style-type: none"> 受験生としての学習習慣を確立するため自主学習に努めるよう指導する。 部活動、学校行事に積極的に参加するよう指導する。 現在よりも成長し、新たなことに挑戦できるように集会などを通して呼びかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の記録をつけることで、自身の学習習慣を見つめ、改善できるよう指導する。 部活動、学校行事を通して、人間的な成長を促し、努力した経験を多く積めるよう指導する。 集会での講話や授業を通して、自身の知的好奇心を探求するような声掛け、指導をする。
	基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 授業や部活動などに集中して取り組むための生活習慣が確立するよう指導する。 挨拶の励行、時間や締め切り、ルールを守ることを集会や教科指導を通じて指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 興道生から社会人になるために、自覚ある言動や行動ができるよう、生徒と日ごろからコミュニケーションを取り、学年団で密に情報共有しながら指導する。 家庭学習記録の睡眠状況などを把握し、興道生としての学校生活に耐え得る生活習慣を意識できるように指導する。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> 「個別最適な学び」や「協働的な学び」を充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を通して、生徒に学ぶ喜びを与えることができたか。 教員は自らの授業の在り方を隨時見直し、工夫や研究を通して授業力の向上を目指すことができたか。 生徒の健康観察に留意するとともに、生徒の自己肯定感・自己有用感を涵養し、命を大切にする心の育成を図ることができたか。 支援が必要な生徒に対して、必要に応じた組織的な対応ができたか。 交通事故撲滅を目指して、交通ルール・マナーを遵守させるなど、生徒の安全への意識を高めることができたか。 いじめ等の危機事案発生時には、生徒指導提要や法に則った迅速かつ組織的な対応ができたか。 真に命を守ることができる組織活動を展開し、防災教育の推進と防災管理の徹底を図ることができたか。 働き方改革を進め、教職員の健康維持に努めることができたか。 学校外の専門家とも連携して教育活動にあたり、同窓会事業及びP T A活動の充実、学校評議員会の開催などを通して、地域に開かれた学校作りを行うことができたか。 	